



生徒指導部から

＝未来の花を咲かせるために＝

2025年9月1日

さあ、2学期のスタート。3年生は進路を決める大きな山場を迎えます。他学年も大運動会や鹿工祭、さまざまな資格試験など高校生活の中で最も忙しく充実した時期に入ります。大切なことは、自分を信じて、目標に立ち向かうこと。「できないかも」や「失敗したらどうしよう」なんて怖がってしまって、新しい自分の可能性に気づくことすらできません。「できない」を「できる」に変えられるのは、自分の意思だけです。目標が高ければ高いほど、その過程では、何度も何度も失敗することがあるかもしれません。

そんな「失敗」についてのお話を紹介しておきます。

『大失敗する者だけが大成をおさめる。』とは、元米司法長官ロバート・ケネディ。

付箋のポストイットは、住友スリーエムの研究者が強力な効果のある接着剤を開発中に、接着力は強いのだが、なぜかすぐにはがれてしまう接着剤の失敗作を作ってしまったことから開発された商品です。「すぐにはがれる」という失敗が付箋に応用することで成功に転じたのです。

『失敗したところでやめてしまうから失敗になる。』

成功するまで続ければ、それは成功になる。』とは、松下幸之助氏。

貧しかった頃の日本では、部屋には裸電球がひとつぶら下がっているだけで、アイロンをかけようと思えば、電球を外してアイロンをつながなくてはならず、真っ暗な中でのアイロンがけは、あまりにも不便でした。そこで電球をつけていても、アイロンがかけられるように「ふたまたソケット」を開発したのが松下電器(現在のパナソニック)創業者の松下幸之助氏です。商品ができるまでに、数え切れないほどの失敗を繰り返しています。

『過ちて改めざる、これを過ちという。』とは、孔子。

失敗そのものを失敗というのではなく、失敗したままやり直さないことを失敗という、そうです。失敗の原因を振り返り、同じ失敗を繰り返さないようにする工夫が成長に繋がると思います。例えば、遅刻という失敗の原因をよく考えて、同じ理由で遅刻をすることがないように。その場しのぎの言い訳を口にするようでは、また同じ理由で遅刻してしまうことでしょう。



勉強に、部活動に、学校行事に、真剣に、精一杯取り組んで、失敗すればいいんじゃないか。

もう一度、やり直せば。あきらめずに、何度でもやり直せば。

真面目に失敗して、それを乗り越えようと頑張ることで、成長の階段をひとつ上がるのだと思います。

企業の方から、「若い人には、絶対に大丈夫だという仕事しか与えられない」という嘆きを聞きます。

うっかり難題を与えて失敗すると落ち込みが激しく、会社に出てこなくなったりしてしまうそうです。

絶対に見返してやる・・・そんな気迫が薄れつつあるのかもしれない。

失敗はつらいこともあるけど、成功の母は失敗だと、失敗を乗り越える気迫が必要だと思います。

かの有名な発明王トーマス・エジソンはこう言いました。

『私は失敗したことがない。

ただ、一万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。』と。

そこから導き出されるのは、

『成功の反対は失敗ではなく、挑戦をやめることである。』と私たちを後押しする言葉。

無理かなあと思うようなこと、確かに何もしなければ、失敗もないでしょう。

でもそれと引き換えに、心を動かされるような『感動』も棄ててしまうことになります。

たくさんの失敗の先にある一つの成功が自分の心を豊かにしてくれるはずですよ。

♪踏み出そう よじ登ろう 高い山ほど絶景が待ってるから

遠回りの道を選んでみよう 険しい峠には何かがあるさ

ありえなかったこと 出会わなかった人 あぶなっかしい 楽しい



と、WANIMAも、楽曲「やってみよう」で、謳っています。